

語り継ぐ土砂災害

災害体験の
生の声を
お聴きください

昭和63年(1988) 7月20日～21日

深夜に襲った集中豪雨による土砂災害

【広島県山県郡安芸太田町加計 江河内谷川 (えごうちだにかわ)】

深夜の集中豪雨により発生した土石流は、寝静まった村を直撃しました。古文書にも記録された災害の記録を証明するように、尊い人命や財産を奪い、人々の心に無惨な傷跡を残したこの土砂災害は、災害史に残るもの(死傷者25名)でした。

被災した地域では、この災害の教訓から、今日も避難訓練を怠らず、『まずは人命を守る』ことを第一としています。



<深夜の豪雨、20km四方で200mm>

<昭和63年7月20日～21日の状況:降雨記録より>

広島県内では、20日の午後から局地的に1時間に20mm前後の強い雨が降ったところもありましたが、全般的に強い雨が継続して降っていました。しかし、夜になって梅雨前線の活動が活発となり、急激に発達した雨雲が島根県三隅町付近から広島県北西部に入り、加計町(現安芸太田町加計)を中心に雨が強まりました。加計では、21日午前1時～4時の3時間に131mmの大雨が降るなど、集中豪雨の特徴とも言える夜半頃(午前0時前後)から夜明け前(午前4時～午前7時頃)までの短時間に集中した大雨をもたらしました。

<土石流が小溪流に沿って襲う>



加計町殿賀(とのが)地区(現安芸太田町加計 殿賀地区)の江河内谷川に沿って流出した土石流(左)と整備後の写真(右)
【建設省(現国土交通省)広報誌「みらい」(No.59 1998.9-10)より転載】



災害発生時の状況と現在の状況(災害時の状況参照:広島県防災Webより、現況は平成18年7月)

<危険だからと言って逃げるわけにはいかない・・・>

「今住んでいる地域が、土砂災害に対して危険度が高い事はわかっています。でも危険だからと言って逃げるわけにはいきません。先祖から引き継いだ故郷なのですから……。」(談)

午前10時に災害発生との想定で、地域にサイレンが鳴り響く。安芸太田町消防団や、殿賀福祉会防災会議の方々中心となって、きめ細かな避難訓練が展開されていく。「…避難場所、避難完了。男〇名、女〇名、被害状況なし、全員の無事確認。」「本部了解。」「…午前11時05分、避難完了。訓練は昼前に無事終了した。」

「ツエ(山津波)が昔あったげな…と言った程度しか思っていないくて、もう200年以上も前のことです。今はそんなことはおこりやあせんよと楽観していたのは事実ですよ。災害の発生は夜中でした。ものすごい雨音に、谷川筋を見回りに行きましたら、国道近くの家が流され出したんですよ。こりやあえらいことになってきたでと思ったのが実感でしたね。雨にあんな恐怖を感じた事はありません。」(談)

(注:「談」は当時の体験者で、防災・避難訓練の先駆者でもあった佐藤氏に回想していただいたお話を要約しています。)



小学校に設置された本部



災害発生の周知と避難喚起の広報パトロール



避難場所に指定された高台の神社

このお話のポイント

- ・災害は繰り返す。地域の地形や災害の歴史に気を配ろう。
- ・まず安全は自分で確かめる。逃げるときは素早く、とにかく身を守ることが一番大切なこと。
- ・一人一人から隣近所、地区・地域の情報を共有しあえば、災害時における危険性は少なくなり、安心感は増す。

<危険も安全も共有する地域でありたい>

「消防団の皆さんが中心となって毎年避難訓練をしています。何時も地域の方々が多数参加してくださって、安全意識とともに、地域意識が高まっています。何処に誰が居るか、どういう状況にあるかが分かり合えていれば人的な被害は最小限に食い止められると思います。」

(談)



避難訓練に参加し指定場所に集まった方々

❖ お問い合わせ先



国土交通省中国地方整備局
太田川河川事務所工務第二課 防災体験談募集係

〒730-0013 広島市中区八丁堀3-20 TEL (082)221-2436 FAX (082)222-2432

URL <http://www.cgr.mlit.go.jp/oitagawa>